

天文学会2012 I N 龍谷大学 アドバイス集

● 星空公団 小野間さん

◎ 経時変化は直線でいいの？ → 曲線を選ぶべきだ

- ・天文ではとにかく条件合わせが難しい
- ・同じ場所で10日間くらい観察して、その傾向から曲線を描いてみる
- ・変化するのは町の明るさだから同じような結果がでるのが理想的だね
- ・とにかくデータをためて平均をとるしかないかも

◎ 水平変化

- ・縦軸はmag/□" なのでlog、横軸の距離もlogをとってみれば
直線がでるかも $\log_{10}()$ ← 100m 毎とかでやると良い

◎ 夜空の明るさ（等光度について）

- ・観測しているのは町の明るさ × 後方散乱係数
→ 町の明るさがエアロゾルなどで乱反射したもの
- ・人工衛星の写真をもとに散乱した光をしらべる
→ 観測した値 ÷ 散乱係数 = 町の明るさ
- ・精度をあげることもよりも、どのくらい誤差があるのかを調べるほうが良い
→ 誤差を調べると、どれくらいまで保証できるかがわかるから良い

◎ 黄砂

- ・福大にもSQM-LE置かせてもらえばいいのに

● 東海大学

- ・一眼レフのカメラと望遠鏡で星・空の写真をとって、まわりの明るさを数値化したら本来の明るさがわかるのではないかと → 数値化できるソフトがある
- ・ジェット気流の有無などの影響によって、星の見え方がかわる
(夏・冬でもかわる)

● 遺愛女子中学高等学校

- ・北海道では夏と冬で大きく明るさが変わる
→ しかし、環境指標等と比較していないらしい

● 高校教諭

- ・黄砂が飛来する高さに合わせて風速を見た方がいい

● 九州大学 山岡先生

九大のラジオゾンデについて話をしたところ、山岡先生は理科部の事を覚えていてくれました。飛ばすためのフーセン（業界用語：ラジオゾンデ）をもっている先生はおそらく理学部の地球惑星科学科にいる模様。知り合いをあたってみてくれるとの事でした

たくさんの貴重なアドバイスありがとうございました！